

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 7 年度第 6 回</p> <p style="text-align: center;">富士見市社会教育委員会議</p> <p style="text-align: center;">議事録</p>						
日 時	令和 7 年 1 2 月 1 1 日 (木) 開会 午後 7 時 0 0 分 閉会 午後 9 時 0 5 分					
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	渡邊 (知) 委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員	本田委員
		○	○	○	○	○
		八木橋委員	河村委員	渡邊 (誠) 委員	檜山委員	亀森委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	生涯学習課 副課長、主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	1 あいさつ 2 協議事項 ・学校教育と社会教育の連携について 3 その他					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

【議 長】まずは事務局から順次資料の説明をお願いします。

事務局から資料 1 学校だよりについて説明

【議 長】質問が無ければ資料 2 の説明をお願いします。

事務局から資料 2 学校教育と社会教育の連携事例（地域子ども教室）について説明

【議 長】この中にも地域子ども教室の運営に携わっている方もいるが、実際に関わっていてどうか。

【委 員】各教室様々なスタイルで開催されている。自分が携わっている教室は不定期だが、小学校の低学年の懇談会時に子ども教室を開催している。1 時間から 1 時間半程度になるが、様々なイベントを催しており、コロナ禍ではソーシャルディスタンスを配慮した上で DVD 鑑賞などを行っていたが、現在は O B ・ O G を呼んで、ブラスバンドやダンスを交えて子どもと遊ぶイベントのような取組を行っている。過去には他の教室でミニ動物園を小学校の校庭に招致した例などもある。現在水谷東小学校は担い手が少なく休止となっているが、他の教室でも課題となっている。みずほ台小学校では P T A の O B ・ O G が中心となり活動しており、自分もそれがきっかけで携わるようになった。

【事務局】多くの教室では現役の P T A よりも P T A の O B ・ O G が活動の中心となっている状態であり、現役の P T A の方は当日のサポートがメインとなっている。担い手不足・高齢化が課題となっており、活動回数や方法についても無理のない範囲で行っており、事務局としても活動をサポートしている。

【議 長】児童の参加がメインだと思うが、他の人が参加することはあるのか。

【委 員】保安上の問題もあるため、難しいことが多い。しかし、地域のお祭りのお手伝いなどを行っていることもある。

【委 員】学童に参加している児童は参加できるのか。

【委 員】自分が携わっている教室では、学童の児童も参加できるが、必ず学童に連絡するように伝えている。

【事務局】教室によっては、申し込みの際に学童へのチェック欄を設けているところもある。また、教室によっては学童が教室運営に深く関わっているところもあるなど、コーディネーターを中心に学童と連携をとった上で教室運営を行っている。

【議 長】他に質問が無ければ、資料 3 の説明をお願いします。

事務局から資料３学校教育と社会教育の連携事例（社会教育施設と学校の連携）について説明

【議 長】質問がなければ資料４の説明をお願いします。

事務局から資料４学校運営支援者協議会と資料５コミュニティ・スクールについて説明

【議 長】何か質問はあるか。

【委 員】前回の会議で、富士見市もコミュニティ・スクールを実施する方針であることを伺ったが、国が求める学校運営協議会に移行するという認識でよいか。

【事務局】おっしゃるとおりである。

【委 員】議論するにあたり財政負担に留意するため予算について調べたが、コミュニティ・スクールはほとんどの自治体で取り組んでいるため、国の財政措置が交付税だが、地域学校協働本部はまだ１，７００のうち１，３００程しか取り組めていないため、補助事業として扱われている。現在、富士見市は地域学校協働本部及び地域活動協働活動推進員は配置しているのか。

【事務局】配置してない。

【委 員】制度設計もこれからはなくてはならないという認識でよいか。

【事務局】おっしゃるとおりである。

【委 員】そこについてもこの会議で議論した方がよいか。

【事務局】近隣市町のふじみ野市の状況を確認したところ、まずは学校運営協議会を整え、その後地域学校協働本部や地域学校協働活動推進員についての整理が進められたと推測され、地域学校協働本部や地域学校協働活動推進員の配置を令和８年度にスタートすることは難しいと考える。

【委 員】文部科学省の地域学校協働活動のポータルサイトを確認したが、地域学校協働本部を置く場所としては、中央公民館に１つ設置するパターンや各公民館に設置するパターンなどあり、また地域学校協働活動推進員についても数多く配置するパターンや１人を教育委員会に配置するパターンなど様々あった。各教育委員会が実情に合わせた設計が必要であると感じる。

【委 員】入間地区社会教育協議会研修会の会場で、ふじみ野市は公民館がなくなったと伺ったが、どのような活動をしているのか。

【事務局】公民館は大規模改修後、文化施設に移行する方向であると伺っている。地域学校協働活動推進員については、公民館に置くのか、学校に置くのかは各地域の実情に合わせて行われており、ふじみ野市の場合は各小中学校に配置することとしている。

【委 員】針ヶ谷小学校の学校だよりの１１月の予定に、学校運営支援者協議会の開催について書かれているが、どのような構成で話が進められたのか。

【委 員】１１月から日程変更になり１２月に開催予定である。学校運営支援者協

議会は例年地域と協力して実施している炊き出し訓練と併せて実施しており、参加者としては、町会の方やPTA、交通指導員、西中学校教頭など、人数は学校側も含め13名程度である。

【委員】学校だよりに書かれている「自分で考える子、助け合う子、じょうぶな子」というのは小学校のスローガンで毎年変わるものなのか。

【委員】これは学校教育目標であるため、基本的に変更されない。校長の方針で変更することも可能だが、その際には学校運営支援者協議会に諮り意見を伺った上で、行うことになる。

【委員】学校運営支援者協議会の説明に、「特色ある学校づくり」を進めると書かれているが、針ヶ谷小学校ではどのような取組を進めているのか。

【委員】今年度富士見市に赴任したため、どれが針ヶ谷小学校の特色か、はっきりと市内の他校と比較したことはないが、地域の方が多く関わっていることや、開校当初から引き継がれている「針小カルタ」の大会を毎年学校内で開催しており、近隣にある針ヶ谷コミュニティセンターでも年明けの休日に「針小カルタ」大会を開催し、その大会の運営には地域の方が多く関わっている。針ヶ谷小学校の卒業生として大会に関わる保護者もあり、これは針ヶ谷小学校の特色と言えるのではないか。

【委員】規約には学校運営支援者協議会の人数は規定されていないが、概ね各校10名程度なのか。

【事務局】学校運営協議会については、10名から構成される協議会を目指している。報酬の支払を行うため、予算内で支払える人数になる。

【委員】学校の先生は公務員で人事異動があるため、地元をよく知る人に関わってもらう必要がある。富士見市は地域学校協働活動推進員や地域学校協働本部をどこに設置するかなどの青写真はあるのか。

【事務局】現状はないが、地域学校協働活動推進員は、その地域に根差した人でないと担うのは難しいと感じている。

【議長】学校運営協議会も地域学校協働本部も、それぞれの地域でその地域の実態に合わせた方法で実施することになると思うが、そこに対して市はどの程度統一感をもって運営するのか。

【事務局】それぞれでの運営方法の決定になると、動き始めに労力が多くかかるため、教育委員会として一定水準の枠組みを提供する必要があると考える。

【議長】例えば、学校運営協議会のメンバー構成などを示すということか。

【事務局】おっしゃる通りである。

【議長】地域学校協働本部の設置場所についても示すのか。

【事務局】現時点では具体的な場所を示すことは難しいが、普遍的な地域にとって核となる場所になると考えるため、丁寧に議論していく必要がある。

【委員】第4期埼玉県教育振興基本計画に、令和8年度に全小中学校で学校運営協議会を開始することが掲げられているが、富士見市としては学校運営協議会の設置はどこまで進められるのか。

【事務局】学校運営協議会については、令和8年度に開始する方向で準備している。地域学校協働活動については、現時点では具体的な話が進んでいないため、いつ頃までに設置するという話は難しい。

【委員】資料の図を見ると、学校運営協議会と地域学校協働本部の両方が揃って

機能するものと受け取れるが、片方だけでも機能するのか。

【事務局】理想は学校運営協議会と地域学校協働本部の両輪で実施することを文部科学省も提唱しているが、形だけの枠組みでは機能しないものが出来てしまう可能性もあるため、慎重に検討していく必要があると考える。

【委員】例えばの話になるが、全てを教育委員会が担当するのではなく、政策企画部が担当しているSDGsフジミライテラスのような既存のコミュニティと連携して取り組むことも方法の一つではないか。SDGsフジミライテラスは、地域学校協働本部のプレイヤーとして考えられる、地域住民や商工会や企業など地域に関わる方が集まっているコミュニティである。今まではSDGsフジミライテラスと教育委員会は関わる機会がなかったが、既存のコミュニティに声をかけて取り組んでいくのが現実的な方法ではないか。

【事務局】おっしゃる通り、ゼロからスタートするのではなく既存の自立している団体へ相談していくべきであると考えます。

【委員】SDGsフジミライテラス側にとっても、そのような声掛けがあれば今後の活動の動機づけに繋がると考えるため、行政の中の横連携は重要である。

【事務局】実際に一緒に取り組むことができるのであれば、学校を核とした地域づくりの推進にも繋がるのではないかと。

【議長】SDGsフジミライテラスとはなにか。

【委員】誰が参加しても良いプラットフォームであり、パートナー会員になるとパートナー会員証が発行される。定期的に会議が開催されており、行きたいときに行って活動に参加することができる。フジミライテラスの取組実績としては勝瀬原記念公園でのフェスの開催や、来週は富士見高校でキャリア教育事業を開催する。これは、地域住民の銀行員や工場で勤務している人などが演壇に立って、高校生100人くらいを前に一緒に話をするイベントである。

【議長】地域を限定せずに、全体で取り組んでいく方法か。

【委員】おっしゃる通りで、プロジェクトベースで取り組んでいる。会員は月に1回程度顔を合わすので、顔なじみになりコミュニティみたいになっている。地域学校協働本部も本部という名称ではあるが、人が集まり、知り合いになり、地域を盛り上げていこうというコミュニティの一つになる。既にそのようなコミュニティがあるのであれば、上手く連携していくことは可能ではないか。

【議長】地域学校協働本部は、市全体というより小学校区などもう少し小さい単位になるのかと思っていた。

【事務局】市で一つというよりは、小学校区もしくは中学校区に一つの枠組で想定している。

【議長】コミュニティ・スクールと同じくらいの規模で、二つが併存するイメージである。

【委員】ふじみ野市では小学校単位で学校運営協議会と地域学校協働活動推進員が設置されていると認識している。小学校単位で地域学校協働本部を設置してしまうと規模が小さいように感じる。駅の周辺や中学校単位でな

いと、集まる人は他の集まりと同様に自治会の人だけになってしまう気がするため、本部の範囲はもう少し広めにした方がよいと個人的には考える。

【委員】学校運営協議会は基本的に学校ごとなのか。

【事務局】基本的には学校ごとだが、取組事例として紹介した小鹿野町のような中学校区のパターンもある。しかし、小鹿野町は今年度から小学校が統合して1つの小学校になった。

【議長】地域学校協働本部は必ずしもコミュニティ・スクールと同じ単位でなくても良く、3～4つをインクルードする本部も可能という認識で良いか。

【委員】校長会では学校運営協議会は学校単位で行う方法で話が進められている。学校の基本方針の承認を得る必要があるため、現在の学校支援者協議会を引き継ぐ形での構想を学校長は持っている。

【委員】地域学校協働本部も対になるような形になるのか。

【委員】前市では平成25年度にコミュニティ・スクールが導入され、徐々に広がっていき、自走するようになったと感じていたが、今思えば地域学校協働本部はなく、学校応援団が基となり、そこに学校が様々な要請をするだけの形になってしまっていた。目指すべきところは両者が相互の関係になることだが、現在は地域に対する学校応援団というコーディネーターを通じて、学校から地域へのお願いが多くなってしまっており、地域からというものは弱いと感じる。

【委員】学校からの依頼をコーディネーターが調整するものか。そこに企業が入ることもあるのか。

【委員】それが理想形だと思うが、学校単位で行っているため、地域に企業があるかないかにも影響されてしまう。もっとダイナミックに行いたくてもなかなか実現できないもどかしさは出てくる。地域学校協働本部を置くのであれば、小学校区より広めな中学校区などにした方が、様々なことに取り組める体制が整えられるのではないか。

【委員】必ずしも対になってなくても良いということか。

【委員】学校運営協議会は学校単位で良いと思うが、地域学校協働本部はもう少し広くても良いと考える。

【委員】地域学校協働本部をどこに設置するべきかというものの、この会議で議論すべき案件ではないか。国のパンフレットにも様々な取組が記載されているが、これを誰が行うのかが問題である。働き方改革が求められている状況もあり、教職員が行うことは難しく、むしろ教職員の負担を軽減するものにする必要がある。どこの単位で地域学校協働本部を設置すべきか、地域学校協働活動推進員を配置すべきなのか、ぜひこの会議で議論していきたい。

【委員】現在行われている富士見市議会を見ていると、放課後児童クラブが指定管理者制度に変わる見込みであることがわかる。また、埼玉県議会ではカスタマーハラスメント防止条例が審議されているが、これは管理者が部下を守るという観点のものである。また、学校運営協議会も来年度からスタートする見込みであり、今後学校を取り巻く環境が大きく変わることが予想される中で、児童・生徒への影響が非常に心配であるが、そ

れを担保するものはあるのか。

【事務局】 学校や教育委員会は児童・生徒のことを第一に考え政策を行っており、どの自治体も、児童・生徒に影響が出ないようにするための対策をとっている。心配はあるかと思うが見守っていただきたい。

【議 長】 学校運営協議会の運営に当たっては、富士見市には学校運営支援者協議会という母体となるものがあり、それを新しい枠組みに沿った形に変え、より良い形にしていくものであるため、ゼロからスタートするよりもやりやすいのではないか。

【事務局】 富士見市には学校運営支援者協議会があり、それが上手く機能していたため、あえて学校運営協議会を推進していなかった背景もあると推測されるため、地域からの理解も得た上で進められる下地は出来ているものと考えている。

【議 長】 今までのやり方をより良いものとした上で、理想形で描かれているように地域学校協働本部を設置し、地域主体で学校を巻き込んで上手く回り出せばより良い状態になるのではないか。

【事務局】 学校が地域に頼っているという構図を、地域学校協働本部が学校を核として地域の横のつながりを作る中心となってもらう構図にすることは、両者にとって良く、国が理想として掲げている部分にもなる。地域学校協働本部については、社会教育の色が強い部分であり、この部分についてはこの会議の議論になるものであると認識している。

【委 員】 この会議は市教育委員会に提議をするイメージであるが、学校運営協議会についてはすでに令和８年度からの移行に向けて動いているものであり、ここで議論しても盛り込めない可能性が高い。現在課題となっている地域学校協働本部に対してどうしていくかをここで議論し提案していくと教育委員会の力になれるのではないか。

【委 員】 児童・生徒への心配はあるかと思うが、学校運営協議会は母体となる学校運営支援者協議会があるため学校もイメージを描きながら走り出すことができる。だからこそ地域学校協働本部というものがしっかりとイメージ出来ていないと今までどおりの状況が続いてしまう。本部の在り方や作り方、構成員など学校だけではできない部分について提言等ができるとうい。学校としても助かる部分になる。

【議 長】 良い本部が出来るとより良いイメージが描けそうだ。

【委 員】 学校運営協議会は今までの学校運営支援者協議会とメンバー的にはあまり変わらないのだろうと思った。それと同時に地域学校協働本部は非常に重要なものになるが、そこの構成メンバーが、両者の両輪のような仕組みを理解できていないと難しいものがあるだろう。自分の所属している町会では学校の生徒にボランティアとして、防災訓練のお手伝いなどの依頼をしている。しかし、地域からの依頼事項をより広げていくビジョンが浮かばない。

【委 員】 前期の社会教育委員会議で行っていた市の弱み・強みの洗い出しを、学校単位でみていくのも良いのではないか。学校運営協議会のスケジュール例の第４回の「学校評価について協議、次年度の経営計画についての説明」を各学校の資料を集めることができるのであれば、各学校の特色

や弱み・強みが見られるのではないか。

【議長】それだと学校がメインになるのではないか。

【委員】現在は各地域の特色がわからないため、それらを把握するための資料になると考える。

【議長】そのような資料を出すことは可能なのか。

【委員】学校評価は公開が義務付けられているため、出すことは可能であると考ええる。ただし地域との結びつきについての評価欄は多くなく、あくまでも学校の教育活動の評価がメインであるため、目的に沿った資料になるかはわからない。

【委員】中学生だと「地域の活動に参加していますか」というような欄はあった気がするが、そこまで多くなかった認識である。

【委員】次年度の学校経営計画はどうか。学校だよりを見ていても気になる事業が多数ある。

【議長】学校だよりに書かれている内容については学校運営協議会での役割になり、学校ではなくもっと地域ベースで考えていくのが地域学校協働本部の役割になるだろう。前期で検討していた際にも、子どもを核にすると人が集まり、地域が活性化するのではないかという話が出ていた。まさに地域学校協働本部がこれに当たるのではないか。いかにして今まで地域に関わってきていない方を巻きこんでいけるか。

【委員】学校運営協議会への移行に向けて準備が進められているとのことだが、地域学校協働活動についても庁内委員会等の他の会議体で似たような議論は行われていないか。

【事務局】学校運営協議会については、学校教育を良くしていくためのものであると認識しており、それは学校教育課が話を煮詰めている状態である。

【事務局】前回の会議の議題であった第4次富士見市生涯学習推進基本計画案の策定にあたっての庁内委員会の際に、学校教育課長からコミュニティ・スクールを含んだ地域学校協働活動の記載についての意見があった。これらに庁内委員会で話を進めているものではないが、市全体で検討していきたいという考えである。

【委員】コミュニティ・スクールは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が根拠であるが、地域学校協働本部は社会教育法を根拠としており、社会教育委員会議の管轄である。

【委員】地域が学校を支えることが大事な点になるが、今の地域に学校を支える力があるのか疑問もある。古い考え方にとらわれないような新しい考え方を取り込んでいけるものになると良いのではないか。

【議長】地域活動の中でも学校や子どもを核にしていくという考え方になるので、新しい人を巻き込んでいけるのではないか。

【委員】変化の激しい時代であるため、取り残される感覚は、年齢など関係なく感じるものであり、それも含めたインクルーシブな社会があるはずである。老若男女が地域で活躍できるようになり、学校を楽しい場所にしていきたいという考え方ではないか。また、文部科学省の組織についても調べたが、学校教育と社会教育が一体になる組織を作るために局の構成を変えたいらしい。法律上は学校教育法と社会教育法で分かれている

が、文部科学省では一体的に推進しており、これはコミュニティ・スクールを実施するためではないか。社会もそれに追随していかなくてはならない。

【委員】コミュニティ・スクールは総合教育政策局が所管しており、今までの生涯学習政策局ではない部局で取り組んでいる。

【議長】他に意見があれば。

【委員】提案になるが、議論をするにあたり、子どもたちの学びの充実と教職員の負担軽減に資するものであるべきと感じている。それにあたっては公民館等の施設が実施している地域との協働活動として活用できそうな既存の事業の洗い出しを行っていく必要があると感じる。また、どのような地域活動をやってみたいか等の教育現場のニーズを調査することができればいいのではないか。

【委員】少し話が外れてしまうが、水谷文化祭に読み聞かせボランティアとして今年初めて参加したが、文化祭ということで大人の参加者が多い印象があったため大人向けの絵本を事前に準備していたが、当日はとて多くの子どもが参加してくれ、やはり子どもを核にした提案は大切だと感じた。

【議長】学校中心で考えるのではなく、地域のことを考え、そこに多くの人を巻き込んでいくときに子どもを核にするという観点も良いのではないか。それを考えていくためには、子どものことが1番であり、教職員の負担軽減も意識しつつ、検討していきたい。学校運営協議会については粛々と移行に向けて動き出しているため、地域学校協働本部や地域学校協働活動をどう進めていけばよいかを考えていく。議論を進めていくにあたり、地域の課題などの資料があると良いかもしれない。地域ごとが見えないのであれば、前期で議論した強み・弱みもそれにつながるのではないか。

【委員】担い手がおらず運営が行き詰まってしまわないような運営の在り方は、どのようにしたら実現できるか。持続可能な仕組みを意識して議論しなくてはならない。

【委員】次回、どこを深掘りしていくか、ターゲットを明確化すべき。推進員にはどのような人物が望ましいかなども検討が必要。

【議長】次回に向けての事前課題として、「富士見市がこれから理想的な地域学校協働本部を作っていくにあたり、ポイントになるのは何か、何を重点的に考えていくべきか」について考えてきてほしい。また、「地域学校協働本部の理想形」や「理想的な本部になるためにポイントになること」でも書きやすいものを出してほしい。そのようなアイデアを出し合いながら、今後の方向性を考えていく。他になければこれで今回の議論は終了とする。

3 その他

・報告事項

【委員】11月18日に嵐山町で開催された比企地区連合社会教育委員研究集会

に参加してきた。外部団体からの参加者は自分一人だった。人口は5万人以下の自治体だが、活気があり、実現しそうな意見が多いように感じた。何かを決めるときに、単位が小さい方が、プロセスが短いこともあり決定が早く、勢いがあるように感じた。

【委員】入間地区社会教育協議会についての報告になるが、前回の研修会の反省会を実施し、アンケートの結果は概ね好評であった。また、自分も昨年度小川町で開催された会合に出席したが、入間地区とは雰囲気が変わり、行政が前面に出ている印象であった。来年3月に入間地区社会教育協議会の事務局が三芳町へ引き継がれ、その後は越生町や毛呂山町など小さい自治体が事務局を担当する流れになるが、そのような自治体が事務局を担えるかという問題も発生しかけている。2月のフォーラムはキラリふじみが改修工事で使用できないため、次回の事務局である三芳町のコピスみよしが会場になる。

【議長】フォーラムは2月6日開催であったか。

【委員】2月6日である。

【議長】その日都合がつく方はぜひ予定をしておいていただきたい。